

個別調査（情報・コミュニケーション支援に関するアンケート）の結果概要

回答数：76人

問1 行政からの連絡や日常生活に必要な情報を入手するにあたって困っていることや不便に感じていること

- ・公共交通に乗車時に事故や遅延などのアナウンスがわからない。(11件)
- ・宅配便などの不在連絡票が紙媒体の場合にわからない。(不在票の電話番号がわからない) (10件)
- ・市役所からの郵便物はわからないので点字にしてほしい。(6件)
- ・スーパーやコンビニのレジで質問されていることがわからない。(3件)

問2 地域での活動や交流、イベントへの参加などに必要な情報を入手するにあたって困っていることや不便に感じていること

- ・情報保障があるのかどうか分からない。(手話通訳がついていると分かるマークがあれば良い) (14件)
- ・事業や催し物の問い合わせ先として電話番号の記載が多く、問い合わせができない。(2件)
(FAX番号やメールアドレスの記載が欲しい)
- ・地域の広報誌には点訳や音訳がないので分からない。(2件)

問3 問1・2の困りごとに対して必要な支援

- ・手話通訳者の育成(増加)。市のイベントには必ず手話通訳を付ける。もしくは、手話通訳と遠隔でも繋がれるようなシステムを設ける。(9件)
- ・各種事業や催し物の問い合わせ先に、文字でやり取りできる媒体を掲載する。(5件)
(メール、line、SNSなど)
- ・点訳・音訳版の情報。点字にした場合も墨字も追加しておいてほしい。(3件)
(情報量が膨大なときには、必要な情報にたどりつくのに時間がかかるので、墨字もあると、ヘルパーさんなどに依頼しやすい)
- ・郵便物等への点字シールの貼り付け。(2件)
- ・コンビニやスーパーなどで、目で見ても、指で示して伝えることができるような表示を付ける。(1件)

問4 日常生活に必要な情報の入手やコミュニケーションを円滑に行うための準備や支援

《自身で準備しておきたいこと》

- ・スマートフォンの活用(音声認知アプリの活用) (30件)
- ・電話リレーサービスへの登録 (5件)

《行政に支援してほしいこと》

- ・点訳・代筆・音読などのボランティアの育成・登録・派遣の調整（人が足りていない）（21件）
- ・意思疎通支援用のアプリの活用など、情報支援の講習会の開催 （6件）
- ・視覚・聴覚障害のある人と接する際の説明書・手引き的なものの配布（周知） （1件）
- ・市報の点字版やデージー版等については、市報をそのまま訳するのではなく、障害のある人に関連する情報を先にするとか、簡易にまとめるなど、障害のある人に配慮した冊子にしてもらいたい。
（1件）

問5 新型コロナウイルス感染症による、日常生活や社会生活を送る上での情報入手の困難さ

- ・みんながマスクを着用しているので、読話ができなくなり、コミュニケーションがとれない。
（15件）
- ・筆談などをしてほしい。 （4件）
- ・市長の会見に手話通訳をつける。 （2件）
- ・障害のある人専用の専用ダイヤルや専用メールアドレスなどを設置してほしい。 （1件）

問6 問5の困り事に対して必要だと思う具体的な支援

- ・イラストやコミュニケーションボードを設置してほしい。 （8件）
- ・障害のある人向けの専用ページや専用ダイヤルを設けてほしい。 （7件）
- ・文字だけの情報ではなく、動画など、さまざまな媒体で情報を発信する。 （4件）
- ・尼崎市としての「ウィズコロナ」の生活様式ガイドラインを作成し、発表する。 （1件）

問7 災害対応など緊急の情報を迅速かつ正確に入手するために効果的だと思う方法

- ・障害のある人を対象とした一斉アラームやメール通知などをしてほしい。 （7件）
（防災ネットへの登録。聴覚障害者向け Net119の登録網が活用できないか）
- ・スマートフォンの活用（防災アプリなどを入れる） （4件）
- ・ハザードマップの情報を視覚障害のある人にもわかるように伝えてほしい。 （4件）
- ・緊急通報システムの対象者の拡大（一人暮らし高齢者だけでなく、障害のある人にも範囲を拡大）
（1件）
- ・聴覚障害のある人用の公式 LINE を作る。 （1件）